

サービス産業チャレンジプログラムとは  
ーサービス産業の活性化・生産性向上を考えるー

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：栃木県生産性本部には、サービス産業活性化・生産性向上委員会が発足するそうですね。

A：(林明夫。以下略)はい。2015年の4月の理事会で発足が決定し、5月の総会後から活動を開始する予定です。

この委員会は、政府の日本経済再生本部で「サービス産業チャレンジプログラム」が決定され、また、同日、経済産業省から「サービス産業の活性化・生産性向上に向けた取り組みー①業種横断的取り組み、②地域レベルでの支援体制の強化、③卸・小売業の活性化・生産性向上ー」が公表されたことを受けて設立されたものです。

政府や経済産業省の決定を見据えながら、栃木県でサービス産業の活性化・生産性向上の活動を行うことは、栃木県の経済の活性化と県民の生活向上に直結するもので、栃木県生産性本部の活動として意義あるものと確信します。

サービス産業に従事する人々の雇用の維持・拡大・労働条件の改善にも、「サービス産業の活性化・生産性向上に向けた取り組み」は意味深いことだと考えます。

Q：日本経済再生本部が4月15日に決定した「サービス産業チャレンジプログラム」とは何ですか。

A：(1)我が国のGDPの約70%はサービス産業で占められており、我が国の経済の成長にはサービス産業の活性化・生産性向上が不可欠。また、地域経済においては、サービス産業は地域雇用の大宗を占めるとともに、地域住民の生活を支えるサービスを提供。国民一人ひとりが、活力ある地域経済社会を実感できるようにするためにも、サービス産業の活性化・生産性向上は極めて重要な政策課題。

(2)このため、サービス産業全体に係わる労働生産性向上の目標を掲げた上で、サービス産業の活性化・生産性向上に向けた「全国でのチャレンジ」を幅広く後押しする施策及び支援体制を「サービス産業チャレンジプログラム」として取りまとめます。

(3)サービス産業の活性化・生産性向上には、付加価値の増大と効率性の向上の双方を丁寧に進めていくことが必要。そのため、先進事業者の優良事例を他の事業者にも応用できるよう事業者目線に立って分かりやすく示し、そうした取り組みを全国に普及。

Q：国の具体的な取り組みとは何ですか。

A：(1)国は「日本サービス大賞」等を通じて業種横断的に優良取り組み事例を収集するとともに、他の事業者が自らの事業に当てはめ、自身の経営課題に照らしてどのような対策を取ればよいかの「道しるべ」として、事業者の経営課題を解決策として「見える化」し、分かりやすく提

供。また、個々の事業者の経営課題を解決を業種横断、業種別双方から支援。

(2)活性化・生産性向上に向けた意欲ある個々の事業者のチャレンジを加速させていくためには、個々の事業者の努力を行政機関、地方自治体、経済団体、業界団体、金融機関、各種専門家が連携して後押し・支援する体制を「全国」的に構築していくことが必要。地域に根差した個々の中・小規模事業者による活性化・生産性向上へのチャレンジを応援する地域レベルでの支援体制を構築。

(3)これらの施策等を着実に実行することで、サービス産業の活性化・生産性向上と、それによる我が国経済の底上げの実現に向けて全力で取り組んでいく。

**Q：なるほど、随分積極的ですね。**

A：(1)はい。この政府の政策は、経済成長の牽引役としてサービス産業を認識した結果であると高く評価すべきと考えます。

(2)政府は、サービス産業の生産性の伸び率を2020年までに2.0%(2013年は0.8%)にすることを目指しています。

(3)2.0%の毎年成長は素晴らしい数値目標と高く評価すべきです。デフレ脱却のために2.0%は必要です。

**Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者の皆様にお伝えしたいことはありますか。**

A：(1)政府や経済産業省がおくればせながらようやくサービス産業の活性化・生産性向上の大切さを認識し、数値目標を定め、「日本サービス大賞」まで設置したことは素晴らしいことです。

(2)政府や経済産業省、自治体がやるべきことが示されましたので、あとは、自己責任・自助努力でサービス産業においてもイノベーション(刷新)を図る以外にありません。よいことがあれば素直な心で学ばせて頂き、社内でも横展開。

(3)自らの組織の活性化・生産性向上の取り組みをどうしたらよいかを考えるべきです。「日本サービス大賞」に挑戦したり、受賞企業は積極的にベンチマークしたりして参りましょう。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：(1)今月、皆様に是非手に取ってお読み頂きたい本の一冊目は、ジョン・ミクルスウェイト、エイドリアン・ワールドリッジ著「英『エコノミスト』編集長の直言、増税よりも先に「国と政府」をスリムにすれば?」講談社2015年1月15日刊です。「The Fourth Revolution：The Global Race To Reinvent the State」の日本語訳。日本の行政改革を考える上で有用です。

もう一つは、モンゴメリ著、村岡花子訳「赤毛のアンシリーズ」新潮文庫、新潮社版です。ゴールデンウィーク少し前から「赤毛のアン」を読み始め、とうとう8巻まで読み終わりました。敗戦直後の日本人にとって、カナダの自然と精神、豊かな生活はおそらく夢のようなものであったかと想像されます。是非御一読を。